

日本：日本の黒鉛電極メーカーの新展開

東海カーボン株式会社（以下、「東海カーボン」）は、2017年9月28日に独 SGL の子会社である米 SGL GE Holding GmbH（以下、「SGL GE」）から、その米国黒鉛電極事業を担う SGL GE Carbon Holding LLC の全株式を取得する契約を10月2日に締結すると発表した。

独 SGL の電極事業を巡っては、昭和電工株式会社（以下、「昭和電工」）が昨年10月に買収すると発表していたが、SGL GE については、米司法省反トラスト局からの許可が下りず東海カーボンが取得することになった。

東海カーボンは、電極市場の低迷が続いた2015年に、国内電極2工場の能力4割を削減し、ファインカーボン及びリチウムイオン電池負極材の生産能力拡大にその設備能力を振り向けた。

一方の昭和電工は、2016年10月に、独 SGL が非コア事業として格下げした黒鉛電極事業を買収することを発表し、既に2013年に取得した中国四川省の電極工場での生産を軌道に乗せるなどして、逆張りをしていた。

今回の動きは、世界的な鉄鋼需要の回復、特に、中国における鉄鋼需要の回復と粗悪品で5000万トン～1億トンあると言われていた地条鋼の駆逐を受けて、電極需要が急回復し電極市場環境が好転したことが大きく影響していると思われる。

中国の電炉鋼比率は鉄鋼年産量約8億トンの11%程度で、2035年には25%と、現在の世界平均並みの比率になることが期待されており、今後は、米国市場だけでなく、中国市場に各社がどのように取り組んでいくかも興味あるところである。

東海カーボンが SGL GE を買収することで、世界 UHP 主要7社の生産量は以下のようになる。

表1 世界主要7社生産量

会社名	工場数	年産量 (千トン/年)
昭和電工	8	259
東海カーボン+SGL GE (米国)	3→5	66→96
Graftech International	4	191
Graphite India	4	98
HEG	1	80
日本カーボン	1	30
SECカーボン	1	30

因みに、2016年中国の黒鉛電極の生産量は50万トン。うち、UHP黒鉛電極は14万トン、HP黒鉛電極は23万トンであり、生産量トップ5社は表2に示した通りである。

表2 中国黒鉛電極トップ5社の生産量（2016年）

UHP黒鉛電極		HP黒鉛電極	
企業名	生産量（千トン）	企業名	生産量（千トン）
方大炭素	27	方大炭素	54
南通揚子	27	介休志尧	33
吉林炭素	22	山東八三	24
開封炭素	21	方大撫順	20
西姆東海	15	吉林炭素	18

以上、東海カーボン発表資料、昭和電工発表資料、東洋経済、日経、日経産業、及び中国炭素産業協会等の資料によりCMIが整理作成する。